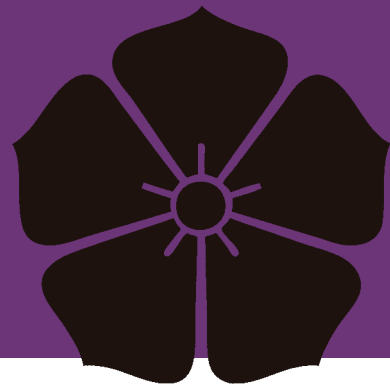


巨大な横堀、技巧的な縄張りを有する山城

おお もり じょう あと 大森城跡



土豪の城から美濃金山城の支城へ

大森城とは

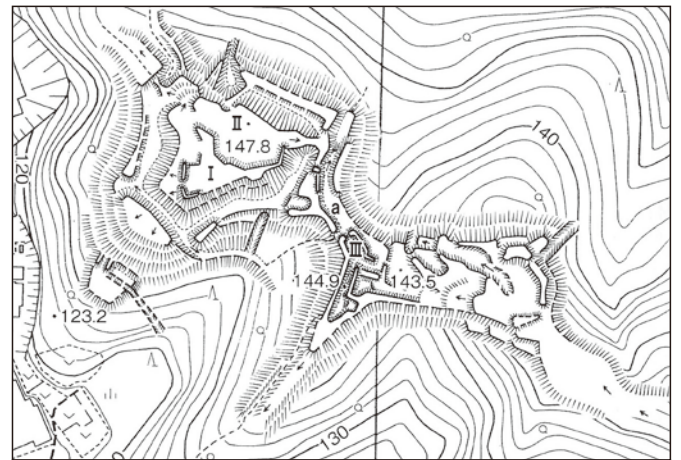
地元の土豪奥村氏によって築かれ、天正10年(1582)に美濃金山城主森長可に攻められ、落城したと伝えられています。大森神社背後の山にあり、山上には三つの曲輪が並んでおり、いずれも周りに土塁や横堀を巡らせています。また、馬出しを備えた虎口や、屈曲する枡形状の虎口も備えており、発達した城郭構造がみられます。これらの特徴から、大森城が戦国時代後半の発達した山城であったことが分かります。

しかし、現在見られる遺構は奥村氏によって築かれたものではなく、美濃金山城防御の支城として、森氏の影響下で改修されたものと考えられています。

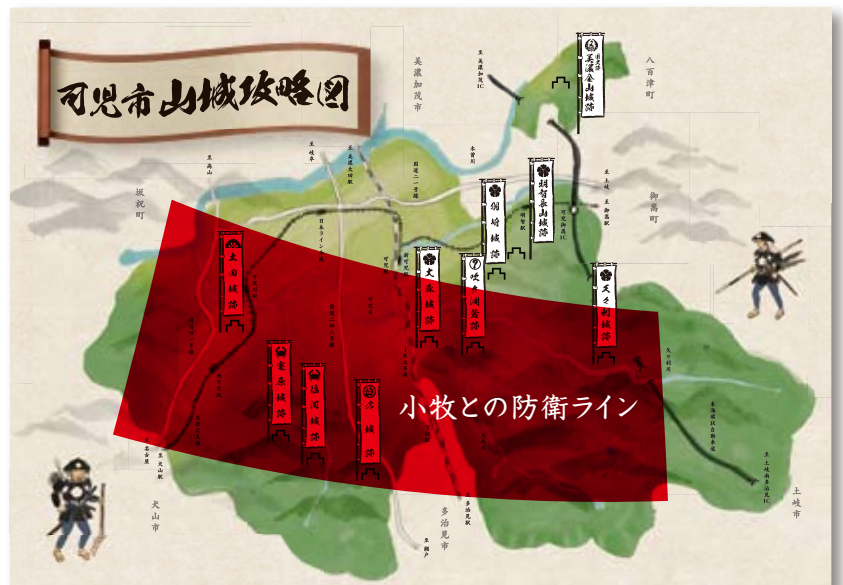
美濃金山城の防衛ライン

大森城跡の東にある山は「城の段」と呼ばれており、その場所はまさに大森城と相対的な位置関係にあることから、地元では大森城主奥村元広の第二の城と伝えられています。吹ケ洞砦と称され、その構造は大森城跡と同じレベルの複雑な構造を有しています。

ただ、平坦面の整地が甘く、一部は自然地形を残していることから、この城が臨時的に築かれたものであることがうかがえます。



吹ケ洞砦縄張り図(『可児市史』第1巻より転載)



大森城跡のココに注目！

大森城跡では、虎口、土塁、切岸、土橋、馬出し、横堀といったあらゆる山城のしかけが見られ、市内でも屈指の技巧的な縄張りを有しています。

土塁

山上部の三つの曲輪にそれぞれ土塁があります。特に北側と南側の曲輪には、高い土塁が築かれています。その下は傾斜の急な切岸となっており、土塁と切岸をセットにして防御を強固なものにしようとした意図がわかります。



巨大な横堀

大森城の最大の特徴は、城の周囲を巡る横堀です。山上の三つの曲輪の東側には深い横堀、主郭から横堀全体が見えます。



枡形虎口

城や各曲輪への出入り口のことを虎口といい、大森城の虎口は土塁で四角く囲んだ枡形虎口となっています。その形態から小牧・長久手の戦いの時期に導入されたものと考えられます。

